

鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成24年度)の訂正について

平成25年12月

平成25年7月31日に公表しました「鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成24年度)」につきまして、輸送障害の届出等により一部の数値に変更がございましたので以下のとおり訂正いたします。(赤字下線の部分が訂正箇所になります。)

●鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成24年度)〔概要版〕

【P1】

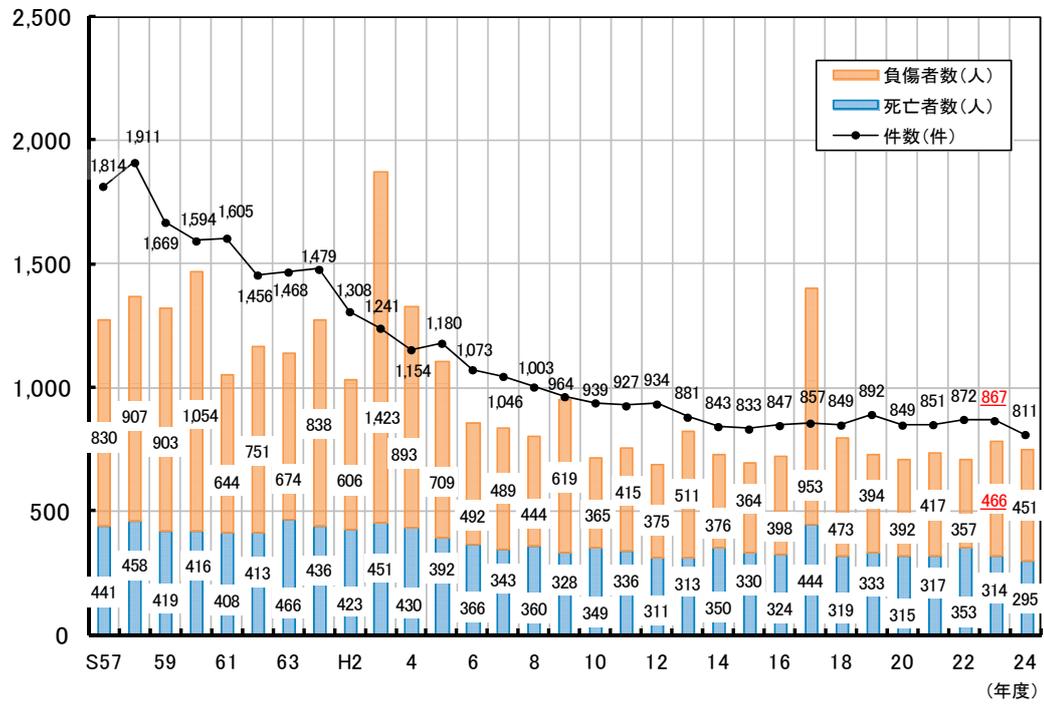
1. 運転事故

- 平成24年度に発生した運転事故は、件数が811件で対前年度56件(6.5%)減、死亡者数が295人で同19人(6.1%)減でした。(表1参照)
- 乗客の死亡事故は、ありませんでした。

表1：運転事故の件数及び死傷者数(平成24年度)

	件数 (対前年度)	死亡者 (対前年度)	負傷者 (対前年度)
列車事故 ^{※1}	22件 (+9件)	0人 (±0人)	89人 (+5人)
踏切事故 ^{※2}	295件 (△36件)	121人 (+2人)	99人 (+6人)
うち踏切障害に伴う列車事故 ^{※3}	1件 (△1件)	0人 (±0人)	18人 (+13人)
道路障害事故	62件 (△28件)	2人 (+2人)	21人 (△23人)
人身障害事故	429件 (△3件)	172人 (△23人)	260人 (+10人)
うちホームでの人身障害事故	223件 (+14件)	24人 (△7人)	199人 (+20人)
物損事故	4件 (+1件)		
合計	811件 (△56件)	295人 (△19人)	451人 (△15人)

図2：運転事故の件数及び死傷者数の推移



【P7】

4. 輸送障害

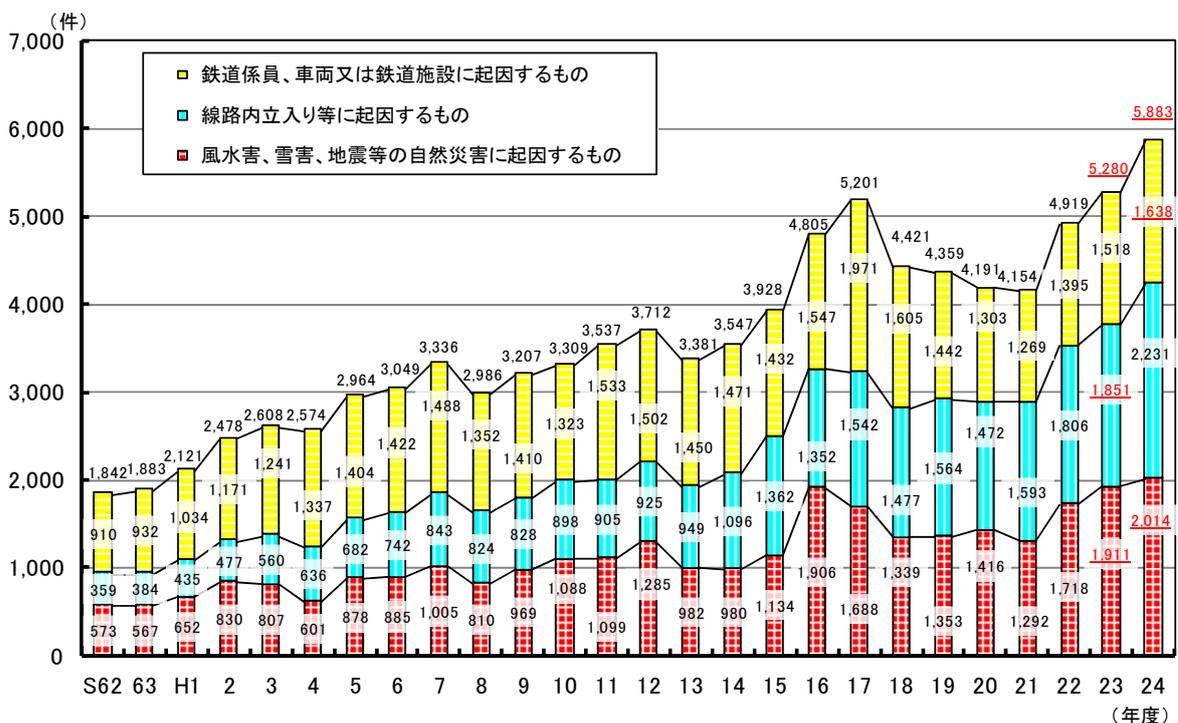
○平成24年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)は 5,883件で対前年度603件(11.4%)増でした。(図8参照)

○鉄道係員、車両又は鉄道施設に起因する輸送障害(部内原因)は、1,638件(27.8%)で対前年度120件(7.9%)増でした。このうち、鉄道係員に起因するものが263件で同7件(2.6%)減、車両に起因するものが917件で同36件(4.1%)増、施設に起因するものが458件で同91件(24.8%)増でした。

○線路内立入り等による輸送障害(部外原因)は、2,231件(37.9%)で対前年度380件(20.5%)増でした。このうち、自殺によるものは、631件で同30件(5.0%)増、動物によるものは514件で同202件(64.7%)増でした。

○風水害、雪害や地震などの自然災害による輸送障害(自然災害)は、2,014件(34.2%)で対前年度103件(5.4%)増でした。なかでも、水害によるものが528件で同43件(7.5%)減、雪害によるものが304件で同57件(15.8%)減、風害が560件で同222件(65.7%)増、地震によるものが62件で同102件(62.2%)減でした。

図8：輸送障害件数の推移



●鉄軌道輸送の安全にかかわる情報(平成24年度)

【P10】

2. 1 鉄軌道における運転事故の発生状況等

(1) 運転事故の件数及び死傷者数の推移

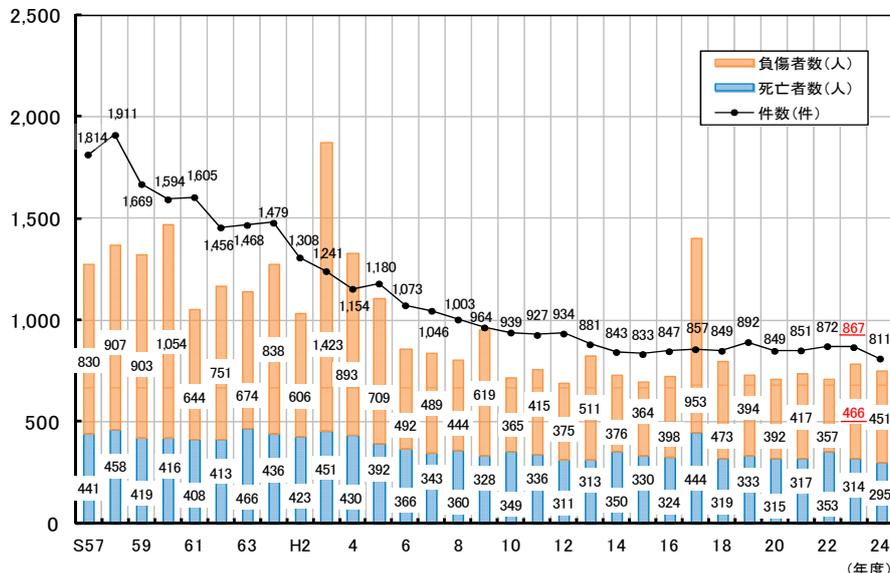
○鉄軌道における運転事故⁹⁾は、長期的には減少傾向にあり、平成13年度からは800件台で推移しています。平成24年度に発生した運転事故は、811件で対前年度56件(6.5%)減でした。

○平成24年度に発生した運転事故による死亡者数は、295人で対前年度19人(6.1%)減でした。運転事故による死亡者数は、近年ほぼ横ばいとなっています。

○また、運転事故による死傷者数は、746人で対前年度34人(4.4%)減でした。この中には、(4)に記載する主な事故の負傷者88人が含まれています。運転事故による死傷者数は、件数と同様に長期的には減少傾向にあります。JR西日本福知山線列車脱線事故があった平成17年度の死傷者数が1,397人であるなど、甚大な人的被害を生じた運転事故があった年度の死傷者数は多くなっています。

○なお、運輸安全委員会の調査対象となった運転事故10は、平成24年度発生した運転事故811件のうち18件(2.2%)でした。

図4: 運転事故の件数及び死傷者数の推移



【P11】

(3) 運転事故の種類別の件数及び死傷者数

○平成24年度に発生した運転事故の内訳は、線路内やホーム上での列車との接触などの人身障害事故が429件(52.9%)で対前年度3件(0.7%)減、踏切道における列車と自動車との衝突などの踏切障害事故が294件(36.3%)で同35件(10.6%)減、路面電車と自動車との道路上での接触などの道路障害事故が62件(7.6%)で対前

年度28件(31.1%)減となっています。列車事故¹¹は22件(2.7%)で対前年度9件(69.2%)増でした。

【P24】

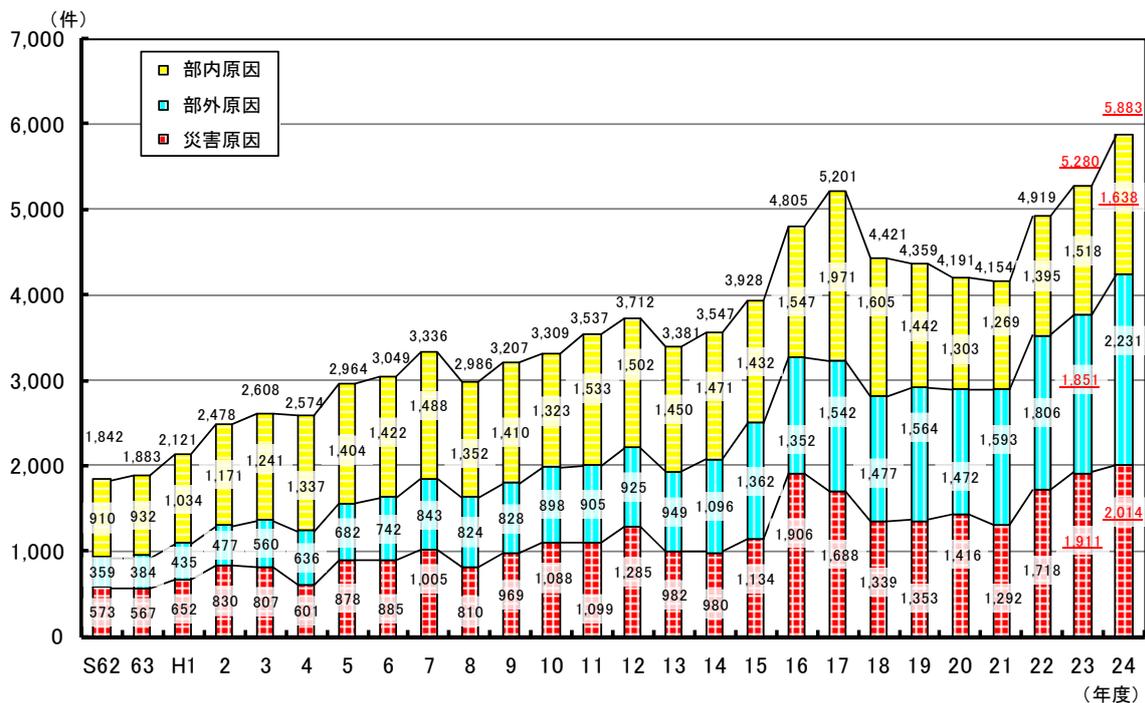
4.1 輸送障害の発生状況

(1) 輸送障害件数の推移等

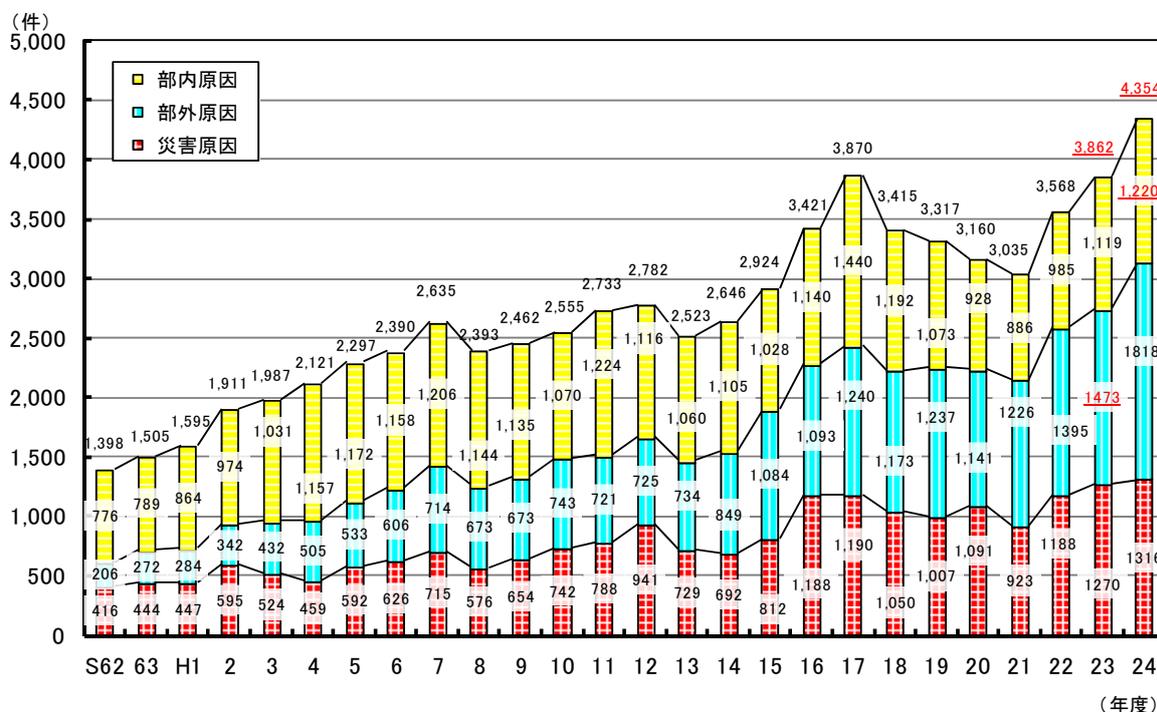
- 平成24年度に発生した輸送障害(列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等)¹⁴は、5,883件で対前年度603件(11.4%)増でした。
- 鉄道係員、車両又は鉄道施設に起因する輸送障害(部内原因)は、1,638件(27.8%)で対前年度120件(7.9%)増でした。このうち、鉄道係員に起因するものが263件で同7件(2.6%)減、車両に起因するものが917件で同36件(4.1%)増、施設に起因するものが458件で同91件(24.8%)増でした。
- 風水害、雪害や地震などの自然災害による輸送障害(自然災害)は、2,014件(34.2%)で対前年度103件(5.4%)増でした。なかでも、水害によるものが528件で同43件(7.5%)減、雪害によるものが304件で同57件(15.8%)減、風害が560件で同22件(65.7%)増、地震によるものが62件で同102件(62.2%)減でした。
- 線路内立入り等による輸送障害(部外原因)は、2,231件(37.9%)で対前年度380件(20.5%)増でした。このうち、自殺によるものは、631件で同30件(5.0%)増、動物によるものは514件で同202件(64.7%)増でした。
- なお、運転事故に伴う列車の運休、旅客列車の30分以上の遅延等があっても、運転事故との重複計上を避けるため、輸送障害として計上していません。

図16: 輸送障害件数の推移

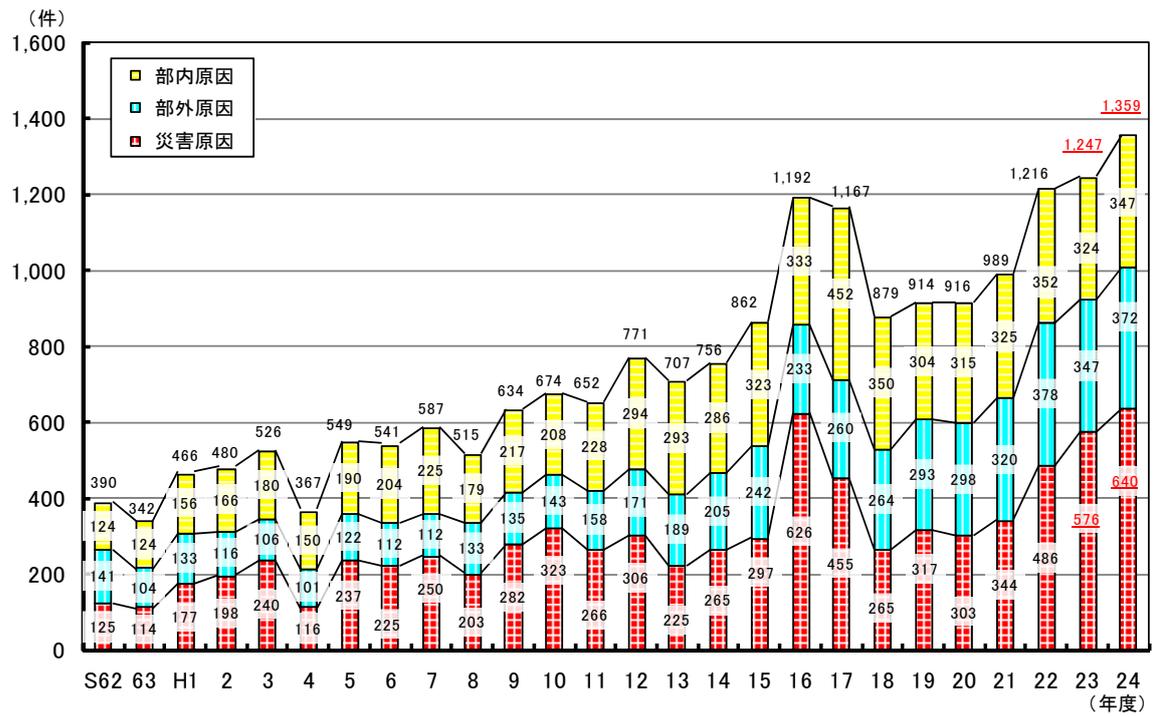
① JR(在来線+新幹線)と民鉄(鉄道+軌道)の合計



② JR(在来線)



④ 民鉄(鉄道)



【P28】

4. 2 事業者区分別の輸送障害件数

○平成24年度における事業者区分別の輸送障害件数は、表5のとおりです。

表5:事業者区分別の輸送障害件数(平成24年度)

(件)

事業者区分 原因	部内原因				部外原因	災害原因	合計
	鉄道係員	車両	鉄道施設	小計			
JR(在来線)	230	687	303	1,220	1,818	1,316	4,354
JR(新幹線)	2	23	5	30	18	41	89
民鉄等	28	177	142	347	372	641	1,360
大手民鉄	9	27	21	57	247	104	408
公営地下鉄等	3	9	14	26	31	14	71
新交通・モノレール	1	12	10	23	4	29	56
中小民鉄	15	129	97	241	90	494	825
路面電車	3	30	8	41	23	16	80
合計	263	917	458	1,638	2,231	2,014	5,883

【P35】

7. 1 自動列車停止装置等の整備状況

(1) 事業者区別の自動列車停止装置等の整備状況

○事業者区別の自動列車停止装置(ATS)等の整備状況は、表10のとおりです。

表10: 自動列車停止装置等の整備状況(平成25年3月末現在)

事業者区分	営業キロ (km)	設置キロ (km)		設置率 (%)
		ATS	ATC	
JR(在来線)	17,508.8	17,240.5	268.3	100%
JR(新幹線)	2,620.2	0.0	2,620.2	100%
民鉄等	7,098.3	5,883.5	1,214.8	100%
大手民鉄	2,671.6	2,494.1	177.5	100%
公営地下鉄等	749.6	18.3	731.3	100%
中小民鉄	3,677.1	3,371.1	306.0	100%
合計	27,227.3	23,124.0	4,103.3	100%

7. 2 踏切保安設備の整備状況

(3) 事業者区別の踏切道数等

○事業者区別の踏切道数及び踏切支障報知装置設置踏切道数は、表13のとおりです。

表13: 事業者区別・踏切種別別の踏切道数(平成25年3月末現在) (箇所)

事業者区分	第1種	第3種	第4種	合計	踏切支障 報知装置
JR(在来線)	18,707	552	1,709	20,968	14,628
民鉄等	10,756	243	1,286	12,285	7,027
大手民鉄	5,626	51	14	5,691	5,071
公営地下鉄等	1	0	0	1	1
中小民鉄	5,129	192	1,272	6,593	1,955
路面電車	397	21	39	457	122